BOLETIM INFORMATIVO INTERNO (GRATUITO) **A・C・A IWATE KENJINKAI DO BRASIL**
ブラジル岩手県人会ニュース
130号 2005年7月発行
RUA THOMAZ GONZAGA, 95-M - LIBERDADE - SÃO PAULO - SP - BRASIL CEP 01506-020
TEL: (11) 3207-2383 • FAX: (11) 3277-0403 • E-Mail: iwate@iwate.org.br • www.iwate.org.br

移民の父「杉村公使」の墓参から

杉村濬公使

「既報」去る5月県人会では杉村濬公使の墓参と現状視察を行い、その様子を前号で伝えましたが一般には殆ど知られていなかった公使について、同行取材して頂いた邦字紙記者により大きく報道された事で、日系社会に「その名と功績」が広く認識されたことと思います。

1908年6月18日、移民船「笠戸丸」で第一回日本移民が着伯以前の1905年4月19日に杉村公使は三代目としてリオ着。着任早々ミナス州やサンパウロ州のコーヒー園をつぶさに視察。ブラジルへの日本人移民導入を推進された。公使は移民の着伯を待たず翌年5月19日ペトロポリスの公使館で急逝され遺体はリオ・デ・ジャネイロ市内のサンジョァン・バチスタ墓地に眠って99年になります。

今回のリオ訪問前後にご遺族やリオ在住関係者から新たな事がらが判明。公使夫人と3人の娘さんは帰国の際、亡き公使の「遺髪と爪」は持ち帰っている事、公使の長男陽太郎氏（国連事務次長）は1911年訪伯し杉村家の家紋をつけた以前の墓が作られたようです。1976年には公使の次男欣次郎氏の長男である「新」氏が墓参されている。

陽太郎氏

杉村新氏と墓地　1976年9月21日

陽太郎氏の娘和子さんの夫「青木盛夫」氏はアルゼンチン大使、氏の長男「青木盛久」氏はペルー大使（公邸が襲撃された当時）を務めている。等々・

以前はリオ在住の県人や心ある方々のお参りがありました。特にリオ文協の鹿田会長は移民90年に自費でお墓の整備を行い、毎年公使の命日に墓参されているとお聞きし一同は感激しました。

没99年目に曾祖父の墓参を果たした「杉村延広」氏は『私人』と思っていたが、皆さんが『公人』として奉っている事を知り嬉しいとの言葉が、今も強く印象に残っております。

公使夫人帰国後に撮影されたと思われる写真
後列左から杉村欣次郎（次男・当時帝生）、ヨシ（良子・濬夫人）、英三郎（三男・当時一高生）、前列左から杉村ナミ（南美子・次女、のち柴田）、タカ（高子・三女、のち鈴木）、長嶺タミ（ヨシの母上）、杉村ルイ（類・濬の妹）、アサ（朝子・長女、のち福島）

写真は杉村新氏所蔵より

リオ文化協会にて

今回の企画を杉村公使ご遺族に「橋渡し」下さった「賛助会員、吉田恭子様」、又、特別記事として「移民の父・杉村公使」の功績を広く伝えて頂いた「サンパウロ及びニッケイ両新聞社」並びに県人会の映像記録に協力を頂いている「畑勝喜氏」の皆様に、改めて心から感謝申し上げます。

22日（雨）、鹿田会長から頂いた番号でリオ郊外の県人「黒沢繁」氏へ連絡がつき、急遽同氏を訪ねることになった。杉村延広氏に別れを告げ、リオ大橋を渡りフンシャル移住地へと向かった。以下映像作家畑氏のレポートです。

97回目の「移民の日」には笠戸丸移民をルーツに持つ2世から6世までの田畑家が報道されました。

岩手県の鉱山離職移住者

黒沢繁さんを訪ねる

畑 勝喜 記

黒沢繁さんとゴイアバ（グァヴァ）畑

リオ州フンシャル移住地で ゴィアバ（グァヴァ）栽培

戦後移民も早や半世紀が過ぎ、コチア青年、開発青年隊、力行会等、戦後移民を代表する『青年』たちも、既に老人の仲間入りをしている人が多い。

これ等の「青年」たちは、組織を持って活動しているが、意外と知られていないのが、いわゆる「ヤマ」で働いた鉱山離職移住者たちの実態だ。

1961年～62年（昭和36～37年）頃の日本はエネルギーが石炭から石油へとかわり、採算のとれなくなった鉱山が次々に閉山し、大量の鉱山労働者の失業は、大きな社会問題となっていた。

日本政府はこうした人々を海外移住にふり向け、南米のドミニカ、ブラジル、パラグアイの直轄移住地に送り込んだのである。

北海道から九州まで、広範囲にわたる地域からかなりの数の鉱山労働者たちが移住して来ていると思われるが、組織もなく不明な点が多い。こうした移住者の一人、松尾出身の黒沢繁さんを訪ねた。

リオ市対岸のニテロイ市から、国道BR101号線で約40Km。ブラジルで初めて誕生した遠距離通信用の巨大なパラボラアンテナ群が林立する基地のあるイタボライの町から、リオ州の避暑地で名高いノーバ・フリブルゴへ通じる州道RJ116号線沿いに、フルミネンセ山脈に抱かれる様にフンシャル移住地がある。

1962年5月、黒沢繁さん（73歳）とフジ夫人（68歳）も、こうしてフンシャル移住地に入植した。黒沢さんは15年間、松尾鉱山の坑内で機械の巻き上げ労働者として働いていたが、斜陽産業といわれた鉱山の明日に、全く希望が持てず、役場で転職先を相談したところ、南米パラグアイへの移住をすすめられたのであった。

当時のパラグアイの直轄移住地は、どこも原始林を切り拓いて移住地を造成している最只中。「君の様な若者は、開拓最前線で活躍しろ」というのが、役人の主張であった。しかし、繁さんは健康面でも自信がなく一年前、既にフジ夫人のお兄さんがこのフンシャルに移住し、大体の様子も掴んでたので、フンシャル行きを強く希望したのであった。

13人兄弟の末弟として育った繁さんは、ブラジル移住の話を家族に伝えたところ、体が弱い、農業の経験もない、金も無い事等を理由に親兄弟の猛反対にあったが、家族には絶対に迷惑をかけない、俺の生き方に一切干渉しないでくれ、と言い切って、退職金を注ぎ込んでフンシャルに10ヘクタールの土地を購入、小さな息子一人を伴って入植した。

この時、同時に入植したのは20家族でそのほとんどが鉱山離職者だった。入植した土地には、既に古い鶏舎があり養鶏のかたわら、典型的な都市近郊形農業として蔬菜造りを始めた。

しかし、事業団の営農指導を受けながら初めての農業体験は順風満帆とはいかなかった。軌道に乗りかけたかに見えた養鶏も、大風に鶏舎が飛ばされて頓挫、その上農薬中毒で苦しみ、この時ばかりはブラジルに来たのが失敗であったか、と心から思ったと云う。こうした心労が、心臓弁膜症を引き起し手術をして現在も人工弁の生活を続けている。

しかし、これが契機となって永年作物である果樹栽培に転向し、ミカンやマラクジャ（パッション、フルーツ）等の栽培で経済的安定の基盤が出来上がり、現在は250本のゴイアバ（グァヴァ）を主に生産している。ゴイアバは年間を通して収穫出来、週3回リオの中央卸売市場に出荷されている。

繁さんは今、日本からの鉱山労働者年金（坑内で働いた鉱山労働者の為の特別年金）と果樹園からの安定した収入で、農場内に豪華な邸宅を新築し、優雅な生活を送っている。

「今は、ブラジルに来て本当に良かったと思います」と語る繁さんだが、悩みは後継者がいない事だ。日本生まれの長男はリオ市でコンピュータ用紙の販売会社を経営。こちらで生まれた長女はリオ歯科大を卒業、岩手県で一年間歯科学を研修（89年）。現在リオ市内で歯科医院を開業。次女はリオ州立大を卒業後、今はサンパウロ市で看護師としてそれぞれ働いている。

「苦しむ親の後姿」を見て育ったから、後を継ぐ子供はいないのさ、諦め顔の繁さんだが、移住地の最盛期には40家族がいたというが、現在住んでいるのは20家族というのは、その辺の事情を如実に物語っているのだろう。現在残った人たちは、皆ゴィアバ農家として、年間を通じ安定した収入を得、平和な暮らしを送っている。

岩手県人の持つ忍耐強さが、幾多の労苦に耐え、現在の満ち足りた生活環境を勝ち取った。顔に刻まれた『深いシワ』が何よりもそれを物語っていた。

黒沢さんと県人会一行

おたより声

「歴史として 胸がわくわく」

杉村公使のお墓参り記事の数々現地の様子が手に取るように判ってとても嬉しく拝見しました。100年も前に日本人移住のきっかけを作った人物のことを詳しく記録に残し、歴史として刻まれてゆくことになると思うだけで胸がわくわくします。

移住100周年までに、ご遺族と国と県人会で完全な記録と形にする作業が順調に進むよう願ってやみません。これからの進展を脇から少しでもお手伝いできればと思っております。

吉田恭子（盛岡）

「ブラジルの話を」

杉村 新（東京）

昨日、大阪の杉村延広氏が東大での会議後、拙宅に寄り夕食をはさみながら5時間もブラジルの話を伺いました。

その折りに、そちらから新聞2部ずつ大阪へ郵送してくださったものを一部頂いたり（記事をFAXで頂いておりますが）1992年当時のビデオ、県人会パンフレットなど沢山頂きありがとうございました。写真もいろいろプリントして下さいました。

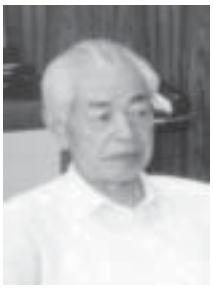
とりあえず、厚くお礼を申し上げます。

「熱い思いが伝わって」

杉村 延広（大阪）

リオではお世話になりありがとうございました。新聞記事については、すべて読ませて頂きました。よく書いて頂いており感謝しており、郵送頂いた新聞も拝見させて頂いております。ニッケイコロニアの方々の熱い思いが伝わってくるようです。

「移民100周年に重い一石を」



先月24日付以降の邦字紙記事ありがたく拝読致しました。「日本移民の父」とまで評される、岩手出身杉村公使の99年目のご命日に、岩手県人会が中心となっての墓参りの報道は移住関係者にとって来る「移民100周年に重い一石を投じた」ことと「温古知新」を思い出されたと存じます。

会長様はじめ、皆様と杉村公使のご曾孫様達との墓参の旅を読み続けるうちに、1963年に初めて訪伯した当時旧海外移住振興KKの末永昌介氏に案内された、フンシャル移住地の姿がハッキリと思い出されました。

幾つか廻った中でも同移住地は開発当初とは言え立派な営農がなされるいるとは、お世辞にも言えない状況と見受けられたことから、ご苦労なさったことが頷かれます。

93年に若い黒沢ご夫妻にお会いしましたが時間が少なく詳しい情報を聞けず残念でした。96年訪伯（4度目）時（会報86号へ記事掲載）リオ近郊から、農業研修生として岩手に来ていた青年の農場（実家）が、大根景気で新聞にまで報ぜられていることを聞くにつれ、リオ近郊農業も良くなっていると安心したものでした。

今回の記事で「ブラジルに来て良かった」との言葉に安堵の胸をなで下ろすとともに、心から応援を送りたいと思った次第でした。

6月7日 花巻市 菅原 圓雄

☆ 同氏から賛助会員証受領の礼状がありました。

《 双手を挙げて賛意を 》

この度は杉村公使に関する膨大な新聞記事のコピーを14日頂戴。いつもながら千田様のご好意厚くお礼申し上げます。杉村公使のお名前だけは存じておりましたが、詳しい事は分からず「何と難しい名前だろう」と辞典を引いた事もありましたが一切無知なことでした。

それが今年になって会報のお蔭で「ブラジル移民導入のきっかけを作られた偉大なお方」で、しかも我が県の盛岡出身だと知ることができました。

そして来る移民百年祭に、岩手県人会としてその記念事業に、リオにある公使の墓標再整備を目論まれた事と知り誠に当を得たる事業と感服、私も双手を挙げて賛意を表しあげるところです。過日その下準備として会の要人の方々が、公使の曾孫にあたるお方と墓参なさり、その整備方法などいろいろ検討なされたご様子実に力強い動きと喜んでおります。

黒沢さんの半生の記、大変感動させられました。ゴヤバ収穫増大の苦心の研究も後継者も無いと嘆かれたところ、見につまされて涙が溢れました。頂戴した記事をすべて大事に蔵って時折読み返そうと思っております。

今回の発起人ともいえる伊藤春野さん家族とは、モジアナ線のラピンニョス付近の耕地で一緒に働いた事もあり、同郷で父同志が曽って盛岡中学で同級だったこともあり、大変親しくして頂きました。当時春野さんはたしか13歳位、あれから72年の歳月が・・・。数年まえから時々お手紙を頂いております。

6月15日 苫米地静子（91歳 パラナ）

（注）メールやお手紙から抜粋させて頂きました。

☆ 岩崎雄亮NY県人会長さんから公使の墓地改修について、協力したいと伝言がありました。

☆ 当地のある政治家から協力したいと。

☆ ジャカレジンニョの須田正雄氏「杉村公使を偲ぶ」記をサンパウロ新聞に掲載

2006年度

留学生・研修生募集

県費留学生・技術研修生を募集致しております。

希望者は県人会 **(11) 3207-2383** まで。

餅まつり 2005

6月26日（日）婦人部恒例の「第15回餅まつり」が行われ300名以上の参加があり大盛況。

土日と婦人部、青年部、役員会と共同作業で搗いた餅米は180キロ（餅で300キロ位）、岩手の餅は「本物の餅」と定評があり、白餅（持ち帰り）9種類の餅料理とも完売し足りない程でした。

金宝丸の蟹肉を添えた雑煮は好評でお代わりも出る程、大根、納豆、餡、醤油味餅に人気があった。

お客さんは餅料理に舌づつみをうちながらビデオ「県人会の活動2004」（畑氏提供）を鑑賞したり、カラオケで楽しい一日を過ごしました。

県人会の動き（2005年6月）

1日　サンパウロ新聞「杉村公使を偲ぶ旅」(4) 掲載
2日　サ紙「公使を偲ぶ旅」(5) を掲載。
☆　蟹漁船森茂四漁勞長より電話、藤村副会長、高畑理事「金宝丸」を訪問。
☆　県より定期刊行物受領。
3日　サ紙「公使を偲ぶ旅」(終) を掲載。
☆　金宝丸の森氏県人会を訪問、藤村副会長応対。
☆　ニッケイ印刷へ会報129号原稿を下版。
☆　県関係者へ「杉村公使」の記事をFAX。
5日　県連主催（千田実行委員長）第16回カラオケ大会が静岡県会館にて、いわてカラオケ愛好会から10名が出場。畑勝喜氏取材。
8日　高橋凡児副会長はサンタ・クルス病院で昨日前立腺の手術と連絡あり。会長見舞う。
☆　婦人部集会
☆　県連カラオケ慰労会に会長出席。
10日　第22回東北親睦演芸祭実行委員会が会館にて行われ、千田会長、山道事務、昆野会計出席。
11日　定例役員会 議題は杉村公使墓参視察報告、餅まつり、日本まつりなどについて。
13日　県国際課工藤明雄氏よりパ国ピラポ県人会45周年式典出席途次、ブラジル県人会訪問予定とのメール。
☆　会報129号発送。藤村副会長、高畑理事、山道夫人手伝う。
15日　餅まつり案内に2新聞社を会長、千田婦人部長、藤村はるみ副部長、山道洋子で訪問。
☆　母県などへ『賛助会員証』43通発送。
16日　工藤ピラポ県人会長より電話で45周年式典出席の要請あり。
☆　婦人部集会。
17日　邦字2紙に餅祭り案内記事掲載あり。
18日　移民の日（97周年）慰霊碑法要、文協で行われた合同法要に会長出席。
☆　臨時役員会 ピラポ県人会式典出席ツアーなど。
20日　移民100周年 PR 晩餐会に千田会長出席。
24日　NY県人会の佐々木まり子さんから賛助会員証受領の便。
☆　県連代表者会に会長出席。
25日　婦人部、青年部、役員総出で餅まつり準備。
26日　婦人部主催餅まつり開催。大盛会であった。
28日　役員会、歓迎会、パラグアイ慶祝ツアーの案内状を発送。
29日　ニッケイ新聞「餅まつり」記事に「ふるさとは遠くで味わうもの?」盛況と掲載。
30日　日本祭り説明会に及川理事出席。
☆　日本祭り用に花巻市桜台小学校の児童作品86点が同市役所から届く。

寄付 寄贈

☆　佐々木　憲輔　様　　お茶菓子

会費納入者名（敬称略）（6月）

谷川トシ（新）、　高橋信男、　岩船貢、
岩船孝行マルセロ、　虎岩アキコ、　（累計132名）

お・知・ら・せ

「歓迎会」
7月29日（金）

午後7時より県庁職員3氏の歓迎会を行います。お客さんは

山口 和彦氏（58歳）
地域振興部長(盛岡市出身)

工藤 明雄氏（46歳）
振興部文化国際課主査(軽米町出身)

小田島 栄氏（59歳）
国際交流協会理事長(北上市出身)

パラグアイ訪問ツアー

パラグアイ国ピラポ岩手県人会45周年記念式典への招待がありました。2003年の県人会45周年にはパ国から慶祝団の参加がありました。

県人会では急遽訪問団員を募る事に決定、日程は7月30日午後発、8月3日午前サンパウロ着。（募集人員40名）

☆「歓迎会」「パラグアイツアー」参加・募集要領は既にご案内致しておりますので省きます。

第8回 日本まつり いよいよ
7月15日、16日と17日

いよいよ「日本まつり」がイミグランテ展示場で17日まで開かれます。地図案内書をご利用下さい。（チラシ）

県人会では「白餅」「餅料理」を販売。また岩手の地酒「南部美人」を用意、試飲出来ます。

花巻市と金ヶ崎町の児童作品（図画と習字）を展示します。

行事予定

☆ 8月21日（日）午前11時より、第29回交流懇親会（従来の高齢者懇親会を改め）を行う。

☆ キロンボ温泉親睦旅行は9月20日からの予定。

Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil
ブラジル岩手県人会
RUA THOMAZ GONZAGA, 95-M - CEP 01506-020 - LIBERDADE - SÃO PAULO - BRASIL
TELEFONE 55 (11) 3207-2383 – FAX 55 (11) 3277-0403
www.iwate.org.br – e-mail: iwate@iwate.org.br

盛岡の夏 さんさ踊り

ミスさんさ